



第二ぎんなん便り

社会福祉法人つなぐ育成会
熊本市手をつなぐ育成会
第二ぎんなん作業所
平成28年9月28日発行
第364号

保護者の意向調査を行いました。

第二ぎんなん作業所の運営などの参考とするため、7月に7年ぶりに保護者の意向調査を実施しました。

※回答率は90%、利用者数20人中18人の回答でしたが、兄弟と一緒にグループホームで生活する人がいることを考えると、妥当な回答率と思われます。



意向調査の結果の一部（「全体的な評価」）は、表のとおりです。

- ・15項目中、「いきいきと充実した生活」「健康で安全な生活」「熱意や使命感を持って業務や支援」「人権尊重の姿勢で、利用者の支援」「作業所だよりなどで・・・様子がよく分かる」など6項目で90%以上の評価。「行くのを楽しみにしている。」「保護者の相談や要望に適切・丁寧に応じている」「一人一人に応じた支援が工夫」「保護者とは連携や信頼関係」なども89%と高い評価となっています。
- ・一方、「自立する力を高めている」「清潔、安全な環境が用意」「懇談会などは、有意義な情報交換や意見交換の場」などの評価が低くなっています。「清潔、安全な環境が用意」は、作業所の施設設備の現状から低い評価が予想されましたが、「自立する力」については、今後の課

題として考えていく必要があります。

- ・何よりも、「作業所に通所させて良かった」100%、「行くのを楽しみにしている」89%、「総合的な評価・印象」で「大変よくがんばっている・がんばっている」95%という評価は、作業所としては、とてもうれしい結果でした。

第二ぎんなん作業所は、相当に老朽化した施設設備で、劣悪に近い環境の中で利用者は作業をしたり過ごしたりしています。このようなハード面はともかく、運営や支援・対応などのソフト面については、現在の作業所の運営や支援・対応に対して高い評価をいただいているようです。今後も利用者のことを第一に考える利用者本位の作業所という方向性を大切に、今の状態を維持していきたいと思えます。

また、便りには載せていませんが、「利用者本人のことで、今一番気がかりなこと」という問いには、利用者や保護者の年齢から、将来のこと（本人・親の加齢・老化、親亡き後のことなど）が、保護者としての最も重要な課題として意識されているようです。作業所としても、保護者の皆さまと連携しながら考えていきたいと思えます。



表 全体的な評価 (A そう思う・B ほぼそう思うの比率)

1 利用者は、作業所でいきいきと充実した生活を送っている。	95%
2 利用者は、作業所で健康で安全な生活を送っている。	94%
3 利用者は、作業所での生活で自立する力を高めている。	72%
4 利用者は、毎日作業所に行くのを楽しみにしている。	89%
5 作業所では、利用者一人一人に応じた支援が工夫されている。	89%
6 職員は、熱意や使命感を持って業務や支援に取り組んでいる。	95%
7 職員は、人権尊重の姿勢で、利用者の支援に当たっている。	94%
8 休憩所や作業場は整理整頓され、清潔、安全な環境が用意されている。	77%
9 職員は、利用者に関する保護者の相談や要望に適切・丁寧に応じている。	89%
10 職員は、利用者や保護者と十分なコミュニケーションを取っている。	88%
11 職員と保護者とは連携や信頼関係ができています。	89%
12 作業所だよりなどで、作業所や利用者の様子がよく分かる。	100%
13 福祉サービスなどに関する情報提供が十分なされている。	83%
14 懇談会などは、有意義な情報交換や意見交換の場になっている。	76%
15 第二ぎんなん作業所に通所させて良かった。	100%

総合的な評価・印象 (大変よくがんばっている・がんばっているの比率)

95%

※評価は、A：そう思う B：ほぼそう思う C：あまり思わない D：思わない E：分からない



熊本市のH28上半期 回収量ランキングで2位に

熊本市ごみ減量推進課が主催する平成28年度上半期集団回収の集計結果で、第二ぎんなん作業所は、44.5トンで、568登録団体中、2位でした。1位は校区自治会でしたが、団体種別のその他（福祉事業所など）では1位でした。

総回収量は3,158トンなので、その約1.4%、70分の1を第二ぎんなん作業所で回収したことになります。これも日頃からご協力をいただいている皆さまのおかげと感謝しています。

リサイクル回収は、工賃の半分近くを占める主要な事業なので、これからも力を入れていきたいと思っています。



《第二ぎんなん作業所の回収量》

古紙量の合計	古紙類以外の合計	総回収量
41,980 kg	2,524 kg	44,504 kg



回収の様子

馬場商店への搬入の様子

受託加工の部品組立の作業、終わる

6月21日から始めたメガソーラー（太陽光発電）の部品組立の受託加工の作業が、8月末で約2万個の部品を組み立て終わりました。

とても人気の作業で、利用者全員が交替で、意欲的に取り組みました。



メガソーラー（太陽光発電）



組立に真剣に取り組む



も徐慣ア々れるツになるブスにつれドて



完成品の山(部品) (大型部品)

大江小のえのきまつりに販売で参加

地元の大江小学校のPTA主催のえのきまつりに、今年も販売で参加して、まつりに花を添えました。



好評だった竹製品

作業所のスプーンや箸などの竹製品もよく売れましたし、竹とんぼも人気でした。一方、三角くじやヨーヨー釣りも、小さなお客様で途切れることがないほどの繁盛ぶりでした。



人気の三角くじと

地域に根ざす作業所としては、何よりも地域の方々に、作業所や利用者を知ってもらうことが大切ですので、このような地域行事には今後も積極的に参加したいと思っています。



ヨーヨー釣り

熊日すばいすの取材がありました。

障がい者施設の手作り製品の特集のため、9月13日（火）に、すばいすの記者さんたちが竹スプーンなどの竹製品の取材に来られました。



説明でカレースプーンや箸、トングなどの製品の完成度に驚かれるとともに、作業の様子を熱心に取材されていました。記事は、10月7日付けのすばいすに掲載される見込みで、楽しみです。



概要の説明



取材を受ける竹工

少しずつ確実に秋めいてきました。

夜、耳を澄ますと、さまざまな虫の音が聞こえてきます。その虫の音を美しいとか心地よいとか感じるのは、日本人だけだそうです。脳の働きに違いがあるようで、“西洋人は虫の音を機械音や雑音と同様に音楽脳で処理するのに対し、日本人は言語脳で受けとめる”そうです。



作業所としては、暑い夏を乗り切り、さわやかな空気の中で作業ができる季節を迎えたことにとってもうれしさを感じているところです。（高橋）